

テーマ：小行列式と階数と一次独立性の関係、連立一次方程式の解空間

【小行列式】行列 A から s 個の行の s 個の列を取り出して作った s 次行列を A の s 次小行列、またその行列式を A の s 次小行列式 と言う。

【定理 A】行列 A に対して次の数は全て等しい。

- (1) $\text{rank}(A)$
- (2) A の s 次小行列式のうち 0 でないものが存在する様な最大の s
- (3) A の一次独立な列ベクトルの最大個数
- (4) A の一次独立な行ベクトルの最大個数

【系 B】 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_k \in \mathbf{R}^n$ に対して次は同値。

- (1) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_k$ は一次独立。
- (2) $A = (\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \dots \ \mathbf{a}_k)$ と置くとき $\text{rank}(A) = k$

【例】 $A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 2 \\ 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 4 \end{pmatrix}$ とする。先ず計算により $|A| = 0$ がわかるので $\text{rank}(A) \neq 3$ 、すなわち $\text{rank}(A) \leq 2$ である。次に A から第 1,2 行の第 1,2 列を取り出して作った行列 $\begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$ を考えると、その行列式は $-1 \neq 0$ なので $\text{rank}(A) = 2$ がわかる。

【120～122】【例】の方法に倣って次の行列の階数を計算せよ。

$$\text{[120]} \quad \begin{pmatrix} 1 & a & a^2 \\ 1 & b & b^2 \end{pmatrix} \quad \text{[121]} \quad \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 2 & 1 & -1 & 4 \\ 1 & 2 & 4 & -1 \end{pmatrix} \quad \text{[122]} \quad \begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 & 3 \\ 2 & 4 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

【123】3 次行列 $A = \begin{pmatrix} ad & ae & af \\ bd & be & bf \\ cd & ce & cf \end{pmatrix}$ の階数は 0 または 1 であることを示せ。

【124】4 次行列 $A = \begin{pmatrix} a & 1 & 1 & 1 \\ 1 & a & 1 & 1 \\ 1 & 1 & a & 1 \\ 1 & 1 & 1 & a \end{pmatrix}$ に対して

- (1) $\text{rank}(A) = 4$ となるための a の必要十分条件を求めよ。
- (2) $\text{rank}(A) = 2$ とはならないことを示せ。

【解空間】 A を (m, n) 行列とするとき、連立一次方程式

$$(*) \quad Ax = \mathbf{0}$$

の解ベクトル全体の集合

$$W = \{ \mathbf{x} \in \mathbf{R}^n \mid Ax = \mathbf{0} \}$$

を $(*)$ の 解空間 という。

【命題 C】 上の W について

- (1) $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in W \implies \mathbf{x} + \mathbf{y} \in W$ (2) $\mathbf{x} \in W, k : \text{スカラー} \implies k\mathbf{x} \in W$
が成り立つ。(この性質は ベクトル空間 として一般化されることになる。)

【定理 D】 A が $A = \begin{pmatrix} E_r & B \\ O & O \end{pmatrix}$ ($B : (r, n-r)$ 行列) の形であるとする。このとき $\begin{pmatrix} -B \\ E_{n-r} \end{pmatrix}$ の列ベクトル表示を

$$\begin{pmatrix} -B \\ E_{n-r} \end{pmatrix} = (\mathbf{b}_1 \mathbf{b}_2 \cdots \mathbf{b}_{n-r})$$

と置けば、

- (1) $A\mathbf{x} = \mathbf{0} \iff \mathbf{x}$ は $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_{n-r}$ の一次結合。
(2) 解空間 $W = \langle \mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_{n-r} \rangle$

【定理 E】 一般の (m, n) 行列 A に対して、方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の解空間は

$$W = \langle \mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_{n-r} \rangle$$

と表される。ただし $r = \text{rank}(A)$ で、 $, \mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_{n-r}$ は一次独立。

【定理 E のアルゴリズム】 (1) A に行基本変形を施して階段行列に変形したのち、列の入れ替えを行なって $A \rightarrow \begin{pmatrix} E_r & B \\ O & O \end{pmatrix}$ とする。このとき、列の入れ替えの行列 Q を記憶しておく。

- (2) 【定理 D】 の $\mathbf{b}_1, \dots, \mathbf{b}_{n-r}$ を計算する。
(3) $\mathbf{u}_1 = Q\mathbf{b}_1, \dots, \mathbf{u}_{n-r} = Q\mathbf{b}_{n-r}$ とおく。

【125～128】 次の行列 A について、連立一次方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の解空間

$$W = \{ \mathbf{x} \in \mathbf{R}^n \mid A\mathbf{x} = \mathbf{0} \}$$

$$W = \langle \mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_{n-r} \rangle$$

の形で記述せよ。

$$[125] \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & -1 \\ 0 & 0 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

$$[126] \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

$$[127] \quad \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$$

$$[128] \quad \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 & -1 & 3 \\ 1 & 1 & 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$